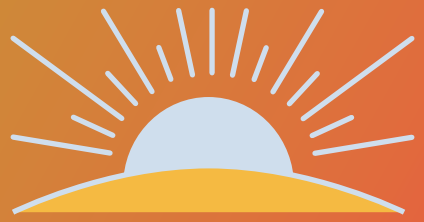
macOS

初心者のための Venturaアップグレード



macOSの最新バージョンがリリースされました

ワークフローの停滞や生産性の低下を防ぎながらmacOSの最新バージョンの新たな機能やシステムをユーザの手に届けるのは、IT管理者の大切な仕事です。

他のエコシステムとは異なり、AppleはmacOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOSといったオペレーションシステムの大型リリースを1年に一度行います。古いバージョンのソフトウェアをデバイスに搭載したままにしておくと、一貫性、セキュリティ、およびユーザエクスペリエンスが損なわれる可能性があります。特に、組織で使われているさまざまな種類のデバイスやOSプラットフォームを1つの管理ソリューションでサポートしている場合に、その傾向が強くなります。

プロセスがシンプルなこと、そして無償で行えることにより、AppleOSのアップグレードは業界トップレベルの導入率を誇ります。エンドユーザが最新の機能にアクセスすることを楽しみにする一方で、IT管理者にはセキュリティコントロールと正確なインベントリを維持し続ける責任があります。

多くのIT部門が知っているように、これは口で言うほど簡単ではありません。ユーザが望むペースでアップグレードを実行する場合はなおさらです。ですが、ここで朗報です。

Jamfは20年にわたり、Appleのアップグレードを成功させるための詳細なガイドを提供してきました。初めてアップグレードを行う人だけでなく、手早くおさらいしたい経験豊富な管理者にも役立つ内容となっています。

新しいOSがリリースされたら直ちにデバイスをアップデートすべき主な理由として、以下の4点が挙げられます。

1. **セキュリティの脆弱性の削減**
2. **素晴らしいユーザエクスペリエンスの維持**
3. **ユーザの生産性の維持**
4. **最新のIT管理機能へのアクセス**

このガイドでは、最新のmacOSについて理解を深め、慎重な準備のもとでアップグレードを実行する方法について説明します。さらに、組織に価値のあるアップグレードを届け、アップデートを行うユーザを支援する方法について知るとともに、業務の中断を最小限に抑え、予定外のダウンタイムをなくす方法についても学ぶことができます。

ベータ版での検証

ステップ 2

AppleSeed for ITが提供する次期リリースのプレビューを利用すると、最新のOSバージョンや機能が組織にどのような影響を与えるかについていち早く知ることができます。

AppleはOSを定期的にアップデートしており、ベータプログラムに参加すると正式なリリースの数ヶ月前に検証を始めることができます。AppleSeed for ITは、macOS、iPadOS、iOS、tvOSのベータプログラムを無償で提供するサービスです。参加するには、Apple Business ManagerまたはApple School Managerで使っている管理対象Apple IDでサインアップします。

ベータプログラムに参加すべき理由

1 Apple OSのベータプログラムは通常、複数のフェーズから構成されます。初期段階から参加し、Appleにフィードバックを提出することで、組織に大きな影響を与える可能性のある問題がリリース前に解決する可能性が高まります。また、Appleにフィードバックを送信する際に「フィードバックアシスタント」Appを使用することで、対応の進捗状況や修正が反映される可能性のあるOSバージョンなどを確認することができます。

2 ベータプログラムに参加すると、新機能や互換性をいち早く試すことができるだけでなく、ユーザエクスペリエンスにどのような影響があるのかについて理解を深めることができます。新たに追加された設定、移動した機能、名称の変更などが把握できるので、トレーニング素材やオリエンテーション資料などを更新する際に役立ちます。このようにしてユーザエクスペリエンスの変化に備えることで、ユーザに配慮したサポートモデルやコミュニケーションプランを用意することができます。

3 最後に、新たなOSの設定や機能だけではなく、アプリケーション、インフラ、管理やセキュリティとの互換性を事前に検証することが、現在の環境で使用されているソフトウェアを引き続き使用するにあたって不可欠です。Appleが提供するベータ版を試用し、導入されたアプリに問題がないか検証することをお勧めします。Appleは、ベータ版OSがさまざまな組織の環境においてどのように動作するかを検証するためのテストプランを豊富に用意しています。

Appleのベータプログラムに参加したことがない場合は、今すぐ無料で登録して今後のOSの検証に役立てましょう。

検証

ステップ 2

最良の結果を得るために、またアップグレードがエンドユーザのワークフローに予期せぬ影響を与えることのないように、以下をはじめとする技術スタック全体の検証をお勧めします。

1 インフラ

VPNやプリンタドライバなど、アプリケーションスタック以外のものは必ず最新OSで検証する必要があります。クラウドホスティングサービスに移行しつつある組織は、このステップがあまり重要でない場合もあります。

2 アプリケーション

これにはウェブベースのものと、そうでないものが含まれます。すべてのアプリケーションを検証する時間がない場合は、互換性に関するベンダーの声明に基づいて優先順位を決定します。

Appleは現在、カーネル拡張機能のサポートを停止し、代わりにシステム拡張のフレームワークを採用しています。カーネルを利用するには、レガシーシステム拡張機能を読み込む必要があります。

Appleのシステム拡張機能への対応については、ご利用のMDMベンダーにお問い合わせください。

3 管理

これにはデバイス導入と管理のソリューション（MDM、EMM、UEMなど）が含まれます。お使いのデバイス管理ソリューションで最新OSの管理機能や制限などを検証できるかどうか確認してください。

4 セキュリティ

これには、アイデンティティとアクセス、エンドポイント保護、脅威防御、コンテンツフィルタリングが含まれます。前述の管理ソリューションと同様に、セキュリティソリューションに新たなセキュリティ機能を検証する機能が備わっているかどうかを確認しましょう。

検証の優先順位の決定

ステップ 2

多くの組織では複数のアプリケーションが業務に使用されています。チームによってまったく異なるデバイスの使い方をしているためです。アプリケーションの検証を成功させるには、まず優先順位を決めることが大切です。

アプリケーションの重要度に基づいて検証の優先順位を高・中・低の3段階にランク付けする方法や、アプリの使用状況から優先順位を決める方法があります。優先順位の決め方と分類が決まったら、検証を行なってくれる志願者を各部署（例：財務、マーケティング、営業など）から募り、日常業務での使い心地や物事がスムーズに進むかどうかを確認します。

macOS Ventura へのアップグレード

Macでアップグレードを実施するにはいくつかの方法があります。アップグレードを行うことを決めたら、まず環境内のMacをどのようにアップグレードするかを決めなければなりません。

OSアップグレードのオプション

以下のいずれのオプションを選択する場合でも、macOSのコンテンツキャッシュサービスを使用してネットワーク使用量を減らすことをお勧めします。これにより、アップグレードのダウンロードスピードが向上します。

Mass Action（一括処理）コマンドの送信によるアップデート

このコマンドを使用すると、監視対象、またはJamf ProのPreStage Enrollment（事前登録）で登録された個々のコンピュータまたはコンピュータのグループを一斉にアップグレードすることができます。Jamf ProからScheduleOSUpdateコマンドが送信されたら、ダウンロードをインストールし、その後でコンピュータを再起動します。詳しくは、「Updating macOS by Sending a Mass Action Command」（英語版のみ）を参照してください。

注意：Appleシリコンを搭載したコンピュータでは、Bootstrap TokenがJamf Proにエスクローされている場合、アップデートの認証にユーザの操作は不要です。この方法を推奨します。

macOSインストーラのパッケージ化によるOSインストール

アップグレードプロセスを自動化したい場合、macOSインストーラをパッケージ化して自動的にインストールする方法と、Self Service経由でユーザにインストールしてもらう方法があります。さらに、スクリプトを使ってユーザエクスペリエンスをカスタマイズすることもできます。macOSの大型アップデートがリリースされた際にはこの方法を推奨します。詳しくは、「Packaging and Deploying the macOS Installer」（英語版のみ）をご覧ください。

注意：Jamfでは、Appleシリコンを搭載したコンピュータにmacOSの大型アップデートをインストールする際には「ダウンロードとインストール」コマンドを使用することを推奨しています。

Jamf Proを使ってmacOSアップグレードやアップデートを導入する方法について知りたい方はこちらをご覧ください。

macOS Ventura へのアップグレード

macOSアップグレードに伴うデータ消去

アップグレードの際にMac上の既存のデータを消去する場合は、前ページのオプションを選択する代わりに、以下の方法でアップグレードすることが可能です。

--eraseinstallコマンドを使うと、macOSのインストールと同時にハードドライブを消去することができます。macOS Venturaのインストーラをダウンロードし、MDMソリューション経由でアップロードするだけで完了します。macOS Venturaをポリシーを使って導入する方法：

1. **Macクライアントにインストーラを用意する**
2. **startosinstallコマンドの--eraseinstallフラグを実行する**
3. **インストールを自動的またはSelf Service経由で開始**

注意：Appleシリコンが搭載されたデバイスでstarttoinstallコマンドとmacOSインストーラ Appを使用する場合はユーザ認証が必要です。

アップグレードの準備ができていない場合

いつアップグレードする場合でも、その当日からセキュリティが確保されます

構成プロファイルに新しく追加されたRecommendation Cadenceキーにより、アップデートの選択肢がさらに増えました。

リリース直後にmacVenturaにアップデートすることで、ユーザは最新の機能やセキュリティ設定をすぐに利用できるようになります。素晴らしいことのように聞こえますが、現場に新しいOSを展開する準備ができておらず、もう少し時間が必要な場合もあります。全面的なアップデートを行う前にセキュリティアップデートを行わなければならないケースもあります。

そんな場合に選べるオプションが登場しました。これにより、macOS Montereyを使い続けながら、必要なセキュリティ設定だけをアップデートすることができるようになりました。

IT管理者はセキュリティアップデートを見逃す心配をせずに、アップグレードの適切なタイミングを待つことができます。

macOS Ventura へのアップグレード

ステップ 3

エンドユーザへの通知

最後に、アップグレードによってデバイスで何が起こるのか、そしてどのような形で協力して欲しいのかについて、率直かつ高い透明性を持ってエンドユーザに定期的に伝えましょう。これは、アップグレードのプロセス全体を通して常に意識すべきことです。

いつアップグレードできるのか、どのようなプロセスになるのか、またはなぜすぐにはアップグレードできないのかといったことに関して、エンドユーザと双方向のコミュニケーションを維持することでプロセスがスムーズになります。

また、このようなコミュニケーションが、この案件に関して発生するヘルプデスクへの問い合わせの削減につながるというメリットもあります。問い合わせが必要になる事態を未然に防ぐことにより、エンドユーザの満足度を高め、必要な時に快く協力してもらうことができます。

アップグレードの前にエンドユーザに伝えるべきこと

1 アップグレードにかかる時間について予備知識がないエンドユーザもいます。アップグレードにかかる平均時間と実行する最適な時間帯についてユーザに知らせておきましょう。

2 アップデート前のデバイスのバックアップを推奨しましょう。ローカルだけでなくiCloudのバックアップも行っておく必要があります。

3 決められた日から30日以内にアップデートする方針を固め、それが行われない場合はIT管理者側で実行することを通知しておきましょう。PCIDSSのコンプライアンスは30日以内のアップデートが要件となっています。

メールやイントラネットで、またはJamfを使用している場合はSelf Serviceのアプリ経由で、OSのアップグレードの前に時間に余裕を持って警告と推奨事項の通知を行っておきましょう。最終的にはそれがエンドユーザのためになります。

アップグレードによる機能強化のメリットを享受する

macOS Venturaがもたらす改善とワークフローの強化により、組織はAppleならではの柔軟でカスタマイズされたデバイスを手に入れることができます。

シームレスなアップグレードプロセスを実現することは、十分なセキュリティ対策やインベントリ管理を維持し、ダウンタイムを最小限に抑えることにつながります。Appleのエコシステム管理に特化したソリューションがあれば、エンドユーザに悪影響を与えたり、IT担当者に多大な負担をかけたりすることなく、最新のApple OSを最大限に活用するためのツールをユーザに提供することができます。

Jamfは、ユーザエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えながら、OSアップグレードを含むAppleのライフサイクル管理を自動化することのできる、唯一の管理およびセキュリティソリューションを提供しています。また、20年にわたりApple製品のサポートに力を入れており、新しいOSが発売されたその日からサポートと互換性を約束しています。

トライアルに申し込む

または、お近くのApple認定販売代理店までお問い合わせください。